

『じぶん未来BOOK』をきっかけに 仕事や職業に真剣に向き合う

常葉学園橘中学・高校（静岡・私立）

「ただ大学や企業に送り出すというのではなく、社会に適応できる力を身につけ心から希望する進路へ」と、昨年度よりキャリア教育改革に乗り出した私立常葉学園橘中学・高校。従来から実施していた進路行事や進路学習を見直し、モチベーションと学力を上げて進路実現を図ることを目指している。

ライフプラン作成と 職業調べを充実させる

「自らの進路を真剣に考えさせるにはどうすればよいかを考えた結果、あえて既存の進路ノートは廃止し、社会の変化や生徒の現状に合わせて柔軟に変化させていけるワークシートを取り入れることにしました」と言うのは、進路課長の三宅秀幸先生。以前は1年生の9月に適性検査「R・C・A P」を実施し、11月に文理選択をしていたが、昨年度から6月に適性検査、7月から9月にかけては夏休みも利用して、ライフプラン作成と職業調べ

を実施することにした。「入学直後に知っている職業を書かせたところ、あまりの少なさに危機感を覚え、職業調べを充実させようと考えたのです」と言うのは、1年進路課の久富恵世先生だ。
ライフプランはまずは、現在、1年後、さらに3、5、10、15、20、30、40、50年後の自分を考えてみるというもの。ワークシートのどこから書き始めてもいい。

次に3つの職業について調べる。職業は、自分で気になっている職業、適性検査で挙げた職業、また50人の職業人を紹介した『じぶん未来BOOK』から気になった仕事や職業を選んでもいい。「『じぶん未来BOOK』に登場する人が語る生き様は、生徒が生き方を語るうえで参考になると思うし、社会の一部を知ることが出来るツールだと確信しています」と三宅先生。「仕事や職業に真剣に向き合うきっかけにしてほしい」と、じっくり読める夏休み前に全員に配布する。


自らの原点を大切にしつつ 視野を広げ、夢に向かう

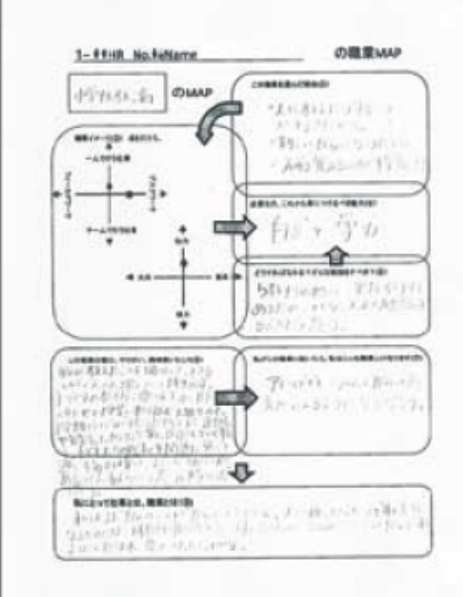
同校は野球やサッカーなどのスポーツも盛ん。中学時代はプロになりたいと言う生徒も少なくない。「中学3年くらいからプロにはなれないとあきらめる生徒が多数います。けれども、キャリア教育は、サッカーや野球が好きという自分の原点を残しつつ視野を広げる助けにもなります。内燃する動機を大切にしてほしいと思っています」と久富先生。このようなキャリア教育の理念を共有しようと、同校では保護者会の内容も変え、情報発信を積極的に行なっている。

三宅先生はよく「大学のパンフレットに載るようになれ」と生徒に言うそう。大学の偏差値より大切なことは、その場所で一生懸命頑張った認められること。そして夢をかなえるための過程です。パンフレットに載るといのは、その象徴の意味で話します。昨年度から充実させたキャリア教育を受けた生徒が、どのような進路実現を果たしているのか、進路課や学年団の先生方は楽しみにしているそう。

ワークシート「ライフプランを立てよう」(左)と 職業MAP(右)

ダウンロード可





1年生の7月から9月に実施。自分の人生を想像し、就きたい職業について調べ、「そのために今からやるべきこと」を主体的に考える。



進路課長 三宅秀幸先生(右)
「調べ、知り、選びとって、自分なりのキャリアを作っていくってほしい」
1年進路課 久富恵世先生(左)
「もがきながら将来を考えた生徒が、どう巣立っていくかが楽しみ」

スクールデータ

生徒数(高校)1086人
(男子530人・女子556人)
普通科30学級・英数科6学級
進路状況(2015年3月) /
大学進学54.0%、
短大進学9.4%、
専各進学21.6%、就職10.8%、
留学0.3%、その他3.8%

静岡県静岡市葵区瀬名2-1-1
電話054-261-2256
<https://www.tokoha.ac.jp/tachibana-jh/>